

業 務 及 び 財 産 の 状 況 に 関 す る 説 明 書

【2024 年 3 月 期】

当説明書は、金融商品取引法第 46 条の 4 の規定に定める金融商品取引業等に関する内閣府令第 174 条の 2 の規定に基づき、インターネットの利用その他の方法により閲覧することができるよう公表するために作成したものであります。

＜ 目 次 ＞

I	当社の概況及び組織に関する事項	
1.	商号	1
2.	登録年月日及び登録番号	1
3.	会社の沿革及び経営の組織	1
4.	株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び 総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合	3
5.	役員並びに執行役員の氏名及び役職名	3
6.	政令で定める使用人の氏名及び役職名	3
7.	業務の種別	4
8.	本店その他の営業所の名称及び所在地	5
9.	他に行っている事業の種類	6
10.	苦情処理及び紛争解決の体制	6
11.	加入する金融商品取引業協会及び対象事業者となる認定投資者保護団体の名称	6
12.	会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号	6
13.	加入する投資者保護基金の名称	6
14.	金融商品取引業等に関する内閣府令第 7 条第 3 号イ及び第 3 号の 2 から第 9 号 までに掲げる事項	6
II	業務の状況に関する事項	
1.	当期の業務概要	7
2.	業務の状況を示す指標	
(1)	経営成績等の推移	10
(2)	有価証券引受・売買等の状況	10
(3)	有価証券の引受けおよび売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価 証券の募集、売出しおよび私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取 扱いの状況	11
(4)	その他業務の状況	13
(5)	自己資本規制比率の状況	13
(6)	使用人および登録外務員の総数	14
III	財産の状況	
1.	経理の状況	15
2.	借入金の主な借入先および借入金額	24
3.	保有有価証券の状況(トレーディングに係るもの以外)	24
4.	財務諸表に関する監査法人等による監査の有無	25
IV	管理の状況	
1.	内部管理の状況の概要	
(1)	体制	26
(2)	内部管理に係る各組織等の役割	26
(3)	内部管理に係る各責任者の役割と責任	27
(4)	コンプライアンス・ホットライン制度	28
(5)	お客様からのご相談及び苦情窓口	28
2.	内部監査体制及び役割	29
3.	分別管理等の状況	
(1)	金融商品取引法第 43 条の 2 の規定に基づく分別管理の状況	30
(2)	金融商品取引法第 43 条の 2 の 2 の規定に基づく区分管理の状況	34
(3)	金融商品取引法第 43 条の 3 の規定に基づく区分管理の状況	34
V	連結子会社等の状況	
1.	当社及びその子会社等の集団	35
2.	連結子会社の商号、所在地、資本金の額、事業の内容等	35

I 当社の概況及び組織に関する事項

1. 商号

岩井コスモ証券株式会社

2. 登録年月日及び登録番号

2007年9月30日（近畿財務局長（金商）第15号）

3. 会社の沿革及び経営の組織

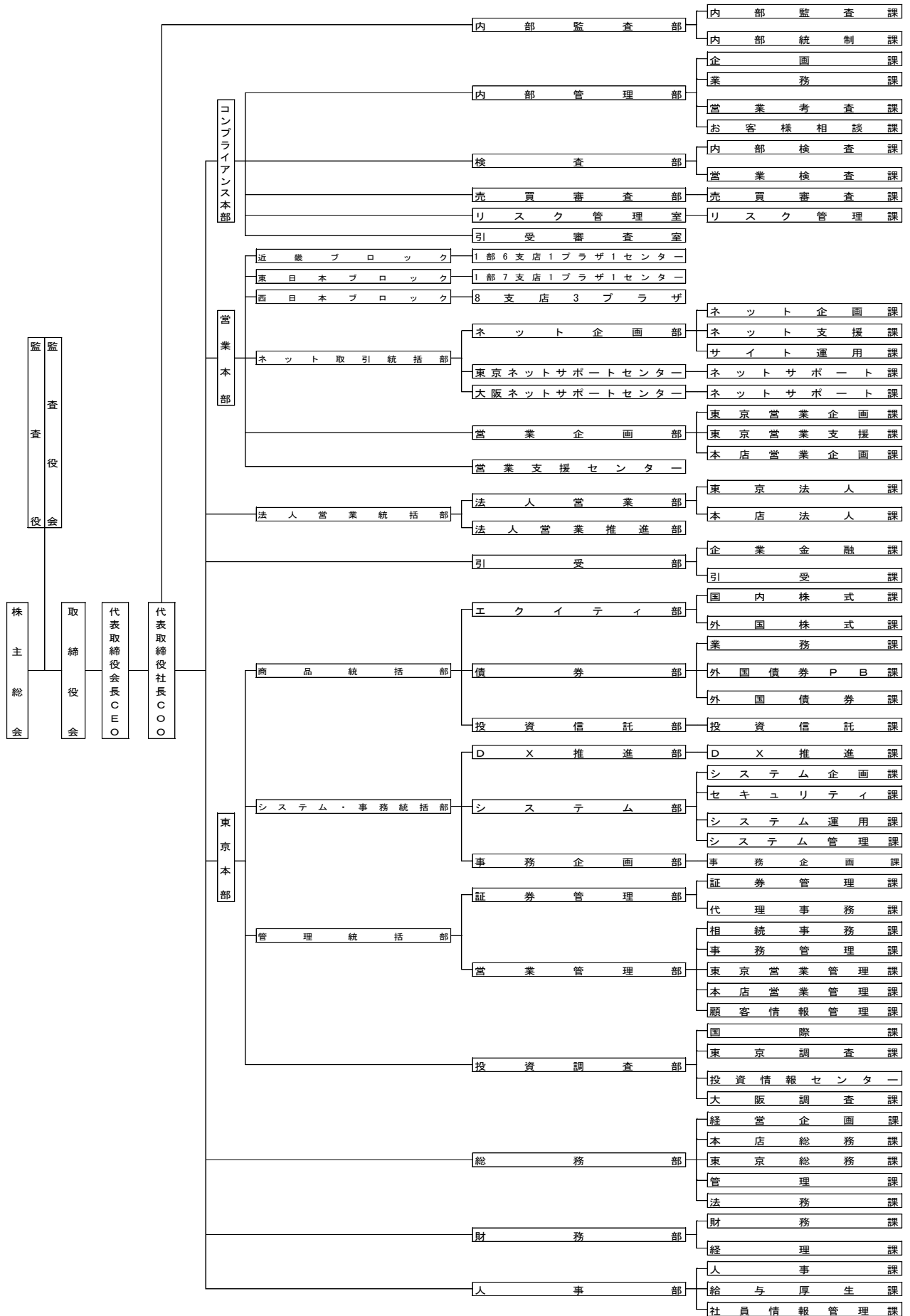
(1) 会社の沿革

当社は、1873年初代野村徳七が両替商「野村徳七商店」を開業したことに始まります。その後、1904年二代目野村徳七（野村信之助）がこれを継承して看板を有価証券現物問屋に改め、1917年12月18日に株式会社に改組し、「株式会社野村商店」を設立いたしました。1930年の金融恐慌を経て、同年10月野村家と資本的連繫を絶ち、当時の役員、従業員が株式の全部を保有して新発足し現在に至っております。その後の沿革の概要は次のとおりです。

年	月	沿 革
1917年	12月	株式会社野村商店設立（資本金：500万円、代表者：野村實三郎、本店：大阪市東区本町2丁目40番地）
1923年	7月	商号を株式会社大阪屋商店に変更
1943年	3月	商号を大阪屋証券株式会社に変更
1948年	11月	証券取引法に基づく証券業者として登録
1949年	4月	大阪証券取引所の正会員となる
1953年	7月	東京証券取引所の正会員となる
1958年	8月	名古屋証券取引所の正会員となる
1960年	3月	福岡証券取引所の正会員となる
1968年	4月	証券取引法の改正に伴い総合証券業務の免許を取得するとともに、兼業業務につき承認を受ける
1979年	5月	当社株式を東京証券取引所、大阪証券取引所各市場第二部に上場
1981年	3月	当社株式を東京証券取引所、大阪証券取引所各市場第一部に上場
1983年	6月	公共債担保貸付業務（現有価証券担保貸付業務）の兼業承認を受ける
1984年	3月	譲渡性預金証書及びコマーシャル・ペーパーで外国において発行されたものの売買、売買の媒介、取次ぎ及び代理業務の兼業承認を受ける
1985年	5月	譲渡性預金の売買、売買の媒介、取次ぎ及び代理業務の兼業承認を受ける
1986年	2月	商号をコスモ証券株式会社に変更
1987年	12月	コスモカルチャー株式会社を設立（1999年1月コスモエンタープライズ株式会社、2010年7月岩井コスモビジネスサービス株式会社に商号変更）
1988年	10月	抵当証券の販売の媒介及び保管業務の兼業承認を受ける
1989年	6月	金融先物取引、取引の媒介、取次ぎ及び代理業務の兼業承認を受ける
1990年	12月	当社株式を名古屋証券取引所市場第一部に上場
1993年	9月	株式会社大和銀行に対し第三者割当増資を行い、同行の子会社となる
1993年	10月	MMF・中期国債ファンドのキャッシング業務の兼業承認を受ける
1995年	9月	金銭の相互支払に関する取引業務の兼業承認を受ける
1998年	1月	情報提供・コンサルタント業務の兼業承認を受ける
1998年	12月	証券取引法の改正に伴い証券業の登録とともに、有価証券の元引受業務の認可を受ける
2002年	10月	変額個人年金保険の取扱いを開始
2004年	4月	株式会社りそな銀行の子会社から、株式会社CSK（現SCSK株式会社）の関係会社となる
2004年	9月	株式会社CSKの連結子会社となる
2005年	9月	金融先物取引業法の改正に伴い、金融先物取引業の登録を受ける
2005年	10月	顧客紹介業の許可を受ける
2006年	1月	投資顧問業の登録を受ける
2007年	6月	投資一任契約に係る業務の認可を受ける
2007年	9月	金融商品取引法に基づく金融商品取引業者として登録を受ける
2008年	8月	株式会社CSKホールディングス（現SCSK株式会社）の完全子会社となる
2008年	12月	当社を存続会社としてCSK－RB証券株式会社と合併する
2010年	4月	岩井証券株式会社（現・岩井コスモホールディングス株式会社）の完全子会社となる
2010年	4月	岩井証券設立準備株式会社設立
2010年	7月	岩井証券設立準備株式会社が岩井証券株式会社から金融商品取引業等を承継し、商号を岩井証券株式会社に変更
2012年	5月	岩井証券株式会社と合併し、商号を岩井コスモ証券株式会社に変更
2022年	11月	金融商品取引法に基づく投資顧問・代理業として登録を受ける

(2)経営の組織

(2024 年 7 月 1 日現在)



4. 株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

(2024 年 3 月 31 日現在)

氏名又は名称	保有株式数 (千株)	割合(%)
岩井コスモホールディングス株式会社	40,000	100.00

5. 役員並びに執行役員の氏名及び役職名

(2024 年 7 月 1 日現在)

役 職 名	氏 名	代表権の 有 無	常勤・非常勤の別
代表取締役会長CEO	沖 津 嘉 昭	有	常 勤
代表取締役社長COO	笹 川 貴 生	有	常 勤
専 務 取 締 役	松 浦 康 弘	—	常 勤
常 務 取 締 役	菅 野 欣 也	—	常 勤
取 締 役	井 上 利 裕	—	常 勤
取 締 役	佐 々 木 茂 夫	—	非 常 勤
取 締 役	齊 藤 行 巨	—	非 常 勤
監 査 役	竹 内 俊 晴	—	常 勤
監 査 役	木 田 洋 一	—	非 常 勤
監 査 役	山 本 眞 吾	—	非 常 勤

以上 10 名

※1. 取締役 佐々木茂夫、齊藤行巨の両氏は、会社法第 2 条第 15 号に定める社外取締役であります。

※2. 監査役 木田洋一、山本眞吾の両氏は、会社法第 2 条第 16 号に定める社外監査役であります。

役 職 名	氏 名
執 行 役 員	齊 藤 克 磨

以上 1 名

6. 政令で定める使用人の氏名及び役職名

(1) 金融商品取引業に関し、法令等を遵守させるための指導に関する業務を統括する者の氏名

(2024 年 7 月 1 日現在)

役 職 名	氏 名
取 締 役 コンプライアンス本部長	井 上 利 裕
内 部 管 理 部 長	松 岡 高 子
検 査 部 長	山 本 育 子
売 買 審 査 部 長	中 橋 京 子

(2) 投資助言業務又は投資運用業に関し、助言又は運用を行う部門を統括する者の氏名

該当事項はありません。

- (3) 投資助言・代理業に関し、金融商品取引法第 29 条の 2 第 1 項第 6 号の営業所又は事務所の業務を
統括する者の氏名
該当事項はありません。

7. 業務の種別

(1) 金融商品取引業

- ① 金融商品取引法第 28 条第 1 項第 1 号に掲げる行為に係る業務
- ② 金融商品取引法第 28 条第 1 項第 2 号に掲げる行為に係る業務
- ③ 金融商品取引法第 28 条第 1 項第 3 号イに掲げる行為に係る業務
- ④ 金融商品取引法第 28 条第 1 項第 3 号ロに掲げる行為に係る業務
- ⑤ 金融商品取引法第 28 条第 1 項第 3 号ハに掲げる行為に係る業務
- ⑥ 有価証券等管理業務
- ⑦ 第二種金融商品取引業
- ⑧ 投資助言・代理業

(2) 金融商品取引業に付随する業務（金融商品取引法第 35 条第 1 項）

- ① 有価証券の貸借業務並びにその媒介及び代理業務
- ② 信用取引に付随する金銭の貸付業務
- ③ 保護預り有価証券担保貸付業務
- ④ 有価証券に関する顧客の代理業務
- ⑤ 受益証券にかかる収益金、償還金及び解約金の支払いにかかる代理業務
- ⑥ 投資証券等にかかる金銭の分配、払戻金、残余財産の分配及び利息、償還金の支払いにかかる代理業務
- ⑦ 累積投資契約の締結業務
- ⑧ 有価証券に関連する情報の提供及び助言業務
- ⑨ 他の金融商品取引業者等の業務の代理
- ⑩ 他の事業者の事業の譲渡、合併、会社の分割、株式交換、株式移転に関する相談及び仲介業務
- ⑪ 他の事業者の経営に関する相談に応じる業務
- ⑫ 通貨その他デリバティブ取引の関連資産の売買、その媒介、取次ぎ及び代理にかかる業務
- ⑬ 譲渡性預金その他金銭債権の売買並びにその媒介、取次ぎ及び代理にかかる業務

8. 本店その他の営業所の名称及び所在地

(2024 年 7 月 1 日現在)

名 称	所 在 地
本 店	〒541-8521 大阪府大阪市中央区今橋 1-8-12
東 京 本 部	〒103-8207 東京都中央区日本橋茅場町 1-7-3
梅 田 支 店	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 2-4-13(阪神産経桜橋ビル 3 階)
高 槻 プ ラ ザ	〒569-0804 大阪府高槻市紺屋町 3-1(グリーンプラザ高槻 3 号館 2 階)
堺 支 店	〒590-0076 大阪府堺市堺区北瓦町 2-4-18(現代堺東駅前ビル 8 階)
岸 和 田 支 店	〒596-0054 大阪府岸和田市宮本町 27-1
阿 倍 野 支 店	〒545-0052 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-3-21(岸本ビル 4 階)
く ず は 支 店	〒573-1106 大阪府枚方市町楠葉 1-6-6
川 西 支 店	〒666-0033 兵庫県川西市栄町 10-5-102
神 戸 支 店	〒650-0021 兵庫県神戸市中央区三宮町 1-3-11
姫 路 プ ラ ザ	〒670-0924 兵庫県姫路市紺屋町 51(日姫興産ビル 6 階)
京 都 支 店	〒600-8006 京都府京都市下京区四条通高倉東入ル立売中之町 91
奈 良 支 店	〒630-8214 奈良県奈良市東向北町 1-1
高 田 支 店	〒635-0086 奈良県大和高田市南本町 11-11
和 歌 山 支 店	〒640-8331 和歌山県和歌山市美園町 5-1-8(山榮ビル 6 階)
千 葉 プ ラ ザ	〒260-0028 千葉県千葉市中央区新町 1-17(JPR千葉ビル 2 階)
西 荻 窪 支 店	〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 1-7-3
新 宿 支 店	〒160-0022 東京都新宿区新宿 3-2-1(京王新宿 321 ビル 5 階)
横 浜 支 店	〒231-0005 神奈川県横浜市中区本町 4-40(横浜第一ビル 2 階)
名 古 屋 支 店	〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄 3-7-13(コスモ栄ビル 2 階)
福 井 支 店	〒910-0005 福井市大手 3-7-1 (福井県織協ビル 5 階)
富 山 支 店	〒930-0004 富山県富山市桜橋通り 1-18
福 山 支 店	〒720-0812 広島県福山市霞町 1-1-24
広 島 プ ラ ザ	〒730-0051 広島県広島市中区大手 2-8-5(合人社広島大手町ビル 2 階)
松 江 支 店	〒690-0887 島根県松江市殿町 111
福 岡 支 店	〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 2-14-2(福岡証券ビル 5 階)
長 崎 プ ラ ザ	〒850-0051 長崎県長崎市西坂町 2-3(長崎駅前第一生命ビル 8 階)
大 分 支 店	〒870-0029 大分県大分市高砂町 2-50(「OASISひろば 21」2 階)

以上 28 店舗

9. 他に行っている事業の種類

- (1) 保険募集にかかる業務
- (2) お客様から要請を受け、提携先、取引先又は販売先などの紹介又は斡旋する業務

10. 苦情処理及び紛争解決の体制

(1) 第一種金融商品取引業

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター(以下、「FINMAC」という)との間で特定第一種金融商品取引業務に係る手続実施基本契約を締結する措置

(2) 第二種金融商品取引業

金融商品取引法第 37 条の 7 第 1 項第 2 号ロに規定する苦情処理措置および紛争解決措置として、一般社団法人金融先物取引業協会 (FINMAC に業務委託) を利用する措置

(3) 投資助言・代理業

金融商品取引法第 37 条の 7 第 1 項第 3 号ロに規定する苦情処理措置および紛争解決措置として、一般社団法人日本投資顧問業協会 (FINMAC に業務委託) を利用する措置

11. 加入する金融商品取引業協会及び対象事業者となる認定投資者保護団体の名称

- (1) 日本証券業協会
- (2) 一般社団法人金融先物取引業協会
- (3) 一般社団法人日本投資顧問業協会

12. 会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号

- (1) 株式会社東京証券取引所
- (2) 株式会社名古屋証券取引所
- (3) 株式会社大阪取引所
- (4) 証券会員制法人福岡証券取引所
- (5) 株式会社東京金融取引所

13. 加入する投資者保護基金の名称

日本投資者保護基金

14. 金融商品取引業等に関する内閣府令第 7 条第 3 号イ及び第 3 号の 2 から第 9 号までに掲げる事項

当社は、有価証券関連業を行っております。

Ⅱ 業務の状況に関する事項

1. 当期の業務概要

当事業年度(2023 年4月1日～2024 年3月 31 日)におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移しました。

また、海外の経済情勢は、米国においては緩やかな景気回復傾向にありますが、中国の不動産市場低迷に伴う景気減速に加え、中東情勢などの地政学リスクを抱え、先行き不透明な状況が続きました。

こうした経済環境のもと、国内株式市場は、日本銀行が金融緩和策の維持を決定したことが好感され、上昇基調で始まり、6月中旬の日経平均株価(終値)は約 33 年ぶりに 33,000 円台を回復しました。その後、9月に入り、欧米の金融引き締め長期化懸念から株価は軟調に推移する局面もありましたが、年が明け2月に入ると、企業による「資本コストや株価を意識した経営」への期待感に加え、生成AI(人工知能)で成長が見込まれる半導体関連銘柄が相場上昇を牽引したことから、日経平均株価は 1989 年につけた最高値を約 34 年ぶりに更新し、3月上旬には4万円を突破しました。その後、日本銀行が金融政策決定会合でマイナス金利政策の解除を決定しましたが、当面は緩和的な金融環境が継続するとの観測を受け、株価は上昇基調で推移し取引を終えました。3月末の日経平均株価(終値)は、前期末を 44.0%上回る 40,369 円 44 銭となりました。

一方、米国株式市場は、主要企業の堅調な決算内容を好感して、期初より上昇基調で始まり、7月には、景気的大幅な減速は避けられるとする「ソフトランディング」への期待が高まり、ダウ工業株 30 種平均は約 36 年ぶりに 13 営業日連続で上昇しました。その後、10 月に入ると、米国の金融引き締め長期化懸念から長期金利が上昇したことに加え、中東情勢の緊迫化による地政学リスクの高まりを背景に株価は下落しました。しかしながら、2月に入り、再び米国景気のソフトランディング期待が高まったことに加え、生成AI向け需要の拡大が見込まれる半導体関連銘柄を中心に株価は一段高となり、3月末のダウ工業株 30 種平均は史上最高値となる 39,807 ドル 37 セント(前期末比 19.6%上昇)で取引を終えました。

(当社の業績)

当社は、資産形成やNISA制度などをテーマとしたWebセミナーの開催やSNS、YouTubeを積極的に活用した情報配信などのデジタルを駆使した金融サービスの提供に加え、国内外の株式を中心とした提案営業に注力しました。この様な取り組みのほか、対面取引・コールセンター取引では、成長・配当・割安に注目し持続的成長が期待できる優良企業に投資する「インベスコ・世界厳選株式オープン」や、中長期的な資産形成を目的とした「野村PIMCO・世界インカム戦略ファンド」に加え、相対的に高い利回りが期待される米国の超長期社債へ投資する「米国超長期プライム社債ファンド」の販売に継続的に取り組みました。また、デジタルトランスフォーメーション(DX)の進展により、今後も成長が期待される半導体関連企業へ投資する「世界半導体関連フォーカスファンド」や「ジャパン半導体株式ファンド」の取り扱いを開始するなど、商品の拡充を図るとともに、投資信託残高の増大に注力しました。

一方、インターネット取引では、「コスモ・ネットレ」の更なる利便性の向上を目的として、2023 年7月末より米国株式リアルタイムトレードにおいて「外貨決済サービス」を開始したほか、NISA口座における日本株・米国株の売買手数料無料化(2024 年4月1日～)を決定しました。また、ゆとりある老後生活実現に向けた資産形成ニーズの高まりを受け、投資初心者の方はもちろん、シニア世代へのサポートを強化するとともに、各種キャンペーンを積極的に展開し、取引の促進及び新規口座獲得に注力しました。

これらの取り組みに加え、企業知名度とサービス認知度の向上を目的としたテレビCM制作に取り組み、お客様の資産形成をサポートする当社アナリストの投資情報の活用を訴求した「対面取引篇」と、インターネット取引「コスモ・ネットレ」の米国株式取引サービスを紹介した「ネット取引(眠らない世界経済)篇」の放映を開始しました。

また、当社が持続的に発展していくためには、常に進化し続けることが重要であると認識し、更なる効率化を求めて「生成AI」や新しいデジタル技術の導入に積極的に取り組むべく、その第一歩として、2024 年1月に「DX推進部」を新設しました。当該部署が中心となって、当社のデジタルトランスフォーメーション(DX)を更に強力に推し進め、お客様の利便性の向上及び業務効率化の推進を継続的に図って参ります。

なお、人への投資という考えのもと、昨今の物価上昇に対する従業員の生活支援に加え、優秀な人材の確保及び定着を目的として、2024 年度は本年度の5%を上回る7%の賃上げ(ベースアップを含む)を実施するとともに、2025 年度入社の新卒初任給についても大幅に引き上げる方向で対処して参ります。

このように、顧客サービスの向上と収益拡大に向けた施策に注力したことに加え、良好なマーケット環境を背景に、当社の営業収益は 240 億 48 百万円(対前期比 22.1%増加)、純営業収益は 237 億 89 百万円(同 22.4%増加)となりました。また、販売費・一般管理費は、テレビCM放映料などの一時的な費用に加え、賞与などの変動費の増加を主因として 161 億 78 百万円(同 10.4%増加)となり、経常利益は 77 億 50 百万円(同 58.3%増加)、当期純利益は 53 億 67 百万円(同 59.9%増加)となりました。なお、営業収益、純営業収益、営業利益、経常利益は、当社の合併(2012 年5月)以降、最高水準となりました。

主な収益と費用の概況は、以下のとおりであります。

(1)受入手数料

受入手数料は 108 億1百万円(対前期比 10.9%減少)となりました。内訳は以下のとおりであります。

①委託手数料

委託手数料は、国内外の株式を中心に 73 億 36 百万円(対前期比 12.7%減少)となりました。

②引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料

引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料は、株券の手数料が 44 百万円(対前期比 21.9%減少)、債券の手数料は 62 百万円(同 24.4%減少)となり、同手数料全体では1億7百万円(同 23.4%減少)となりました。

③募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料

募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料は、投資信託の販売手数料を中心に7億 87 百万円(対前期比 33.5%減少)となりました。

④その他の受入手数料

その他の受入手数料は、投資信託の信託報酬を中心に 25 億 70 百万円(対前期比 7.6%増加)となりました。

(2)トレーディング損益

株券等トレーディング損益は、104 億 59 百万円の利益(対前期比 126.0%増加)となりました。一方、債券等トレーディング損益は、2億 47 百万円の利益(同 71.2%減少)となり、その他のトレーディング損益 70 百万円の損失(前期は 43 百万円の損失)を含めたトレーディング損益の合計は 106 億 36 百万円の利益(対前期比 95.4%増加)となりました。

(3)金融収支

金融収益は、信用取引収益を中心に 25 億 95 百万円(対前期比 22.2%増加)となりました。一方、金融費用は2億 59 百万円(同 1.3%減少)となり、差し引き金融収支は 23 億 35 百万円(同 25.5%増加)となりました。

(4)販売費・一般管理費

販売費・一般管理費は、テレビCM放映料などの一時的な費用に加え、業績に連動する賞与等の変動費の増加を主因として、161 億 78 百万円(対前期比 10.4%増加)となりました。

(5)営業外損益

営業外損益は、受取配当金を中心に1億 40 百万円の利益(対前期比 19.3%増加)となりました。

(6)特別損益

特別損益は、金融商品取引責任準備金繰入れの計上により 55 百万円の損失となりました(前期は 1 百万円の損失)。

2. 業務の状況を示す指標

(1) 経営成績等の推移

(単位:百万円)

	2022 年 3 月 期	2023 年 3 月 期	2024 年 3 月 期
資 本 金	13,500	13,500	13,500
発行済株式総数(千株)	40,000	40,000	40,000
営 業 収 益	20,719	19,701	24,048
(受入手数料)	(9,350)	(12,117)	(10,801)
((委託手数料))	((4,834))	((8,405))	((7,336))
((引受け・売出し・特定投資家向け 売付け勧誘等の手数料))	((311))	((139))	((107))
((募集・売出し・特定投資家向け 売付け勧誘等の取扱手数料))	((1,555))	((1,183))	((787))
((その他の受入手数料))	((2,649))	((2,388))	((2,570))
(トレーディング損益)	(9,255)	(5,443)	(10,636)
((株券等トレーディング損益))	((8,388))	((4,628))	((10,459))
((債券等トレーディング損益))	((904))	((859))	((247))
((その他のトレーディング損益))	((△37))	((△43))	((△70))
純 営 業 収 益	20,523	19,438	23,789
経 常 利 益	5,564	4,897	7,750
当 期 純 利 益	3,572	3,356	5,367

(2) 有価証券引受・売買等の状況

① 有価証券の売買の状況 (デリバティブ取引を除く)

イ. 株券

(単位:百万円)

	2022 年 3 月 期	2023 年 3 月 期	2024 年 3 月 期
自 己	655,827	353,966	728,098
委 託	4,499,395	4,563,933	5,871,943
計	5,155,223	4,917,899	6,600,041

ロ. 債券

(単位:百万円)

	2022 年 3 月 期	2023 年 3 月 期	2024 年 3 月 期
自 己	97,012	64,651	34,685
委 託	22	24	—
計	97,035	64,675	34,685

ハ. 受益証券

(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
自 己	1,225	1,024	672
委 託	341,089	384,712	264,045
計	342,315	382,736	264,718

ニ. その他

(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
新株予約権証券	自 己	—	—
	受 託	0	11
そ の 他	自 己	0	—
	受 託	10,012	2,902
計	10,013	9,931	2,913

②有価証券に関するデリバティブ取引の状況

イ. 市場デリバティブ取引

(単位:百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期
株券に係る取引	先物	自 己	—
		受 託	1,090,809
	オプション	自 己	—
		受 託	1,449,113
債券に係る取引	先物	自 己	14,852
		受 託	—
	オプション	自 己	—
		受 託	—
計	2,554,774	2,132,064	3,134,857

ロ. 店頭デリバティブ取引

該当事項はありません。

ハ. 外国市場デリバティブ取引

該当事項はありません。

(3)有価証券の引受けおよび売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出しおよび私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況

(単位:千株、百万円)

区 分			引 受 高	売 出 高	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の総額	募 集 の 取 扱 高	売 出 の 取 扱 高	私 募 の 取 扱 高	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の 取 扱 高
2 0 2 2 年 3 月 期	株 券	株 数	3,419	3,156	—	—	—	—	—
		金 額	3,349	2,977	—	—	—	—	—
	債 券	国 債	—			928		—	—
		地 方 債	36,276			—		—	—
		特 殊 債	—	—	—	—	—	—	—
		社 債	18,200	13,905	—	18,200	—	—	—
		計	54,476	13,905	—	19,128	—	—	—
	受益証券					535,048	—	600	—
	その他		—	—	—	—	—	—	—
2 0 2 3 年 3 月 期	株 券	株 数	688	673	—	—	—	—	—
		金 額	1,011	935	—	—	—	—	—
	債 券	国 債	—			458		—	—
		地 方 債	16,062			30		—	—
		特 殊 債	—	—	—	—	—	—	—
		社 債	7,800	6,420	—	7,700	—	—	—
		計	23,862	6,420	—	8,188	—	—	—
	受益証券					465,572	—	—	—
	その他		—	—	—	—	—	—	—
2 0 2 4 年 3 月 期	株 券	株 数	610	516	—	—	—	—	—
		金 額	874	735	—	—	—	—	—
	債 券	国 債	—			1,591		—	—
		地 方 債	15,348			60		—	—
		特 殊 債	—	—	—	—	—	—	—
		社 債	5,700	2,922	—	5,700	—	—	—
		計	21,048	2,922	—	7,351	—	—	—
	受益証券					567,060	—	—	—
	その他		—	—	—	—	—	—	—

(4) その他業務の状況

① 有価証券に関連しない市場デリバティブ取引の状況

(単位:百万円)

		2022 年 3 月 期	2023 年 3 月 期	2024 年 3 月 期
取引所外国為替証拠金取引	自 己	—	—	—
	受 託	765,613	1,080,807	1,079,309
計		765,613	1,080,807	1,079,309

② 有価証券に関連しない店頭デリバティブ取引の状況

該当事項はありません。

③ 有価証券の貸借等の状況

(単位:百万円)

		2022 年 3 月 期	2023 年 3 月 期	2024 年 3 月 期
株 券	貸 借	14,493	17,184	18,562
	貸借の媒介	—	—	—
	貸借の代理	—	—	—
債 券	貸 借	—	—	—
	貸借の媒介	—	—	—
	貸借の代理	—	—	—

④ その他の商品の売買の状況

該当事項はありません。

(5) 自己資本規制比率の状況

(単位:百万円)

		2022 年 3 月 期	2023 年 3 月 期	2024 年 3 月 期
自 己 資 本 規 制 比 率 (A / B)		823.4%	740.8%	806.9%
固定化されていない自己資本の額 (A)		42,577	40,738	45,313
リ ス ク 相 当 額 合 計 (B)		5,170	5,499	5,615
	市 場 リ ス ク 相 当 額	274	562	455
	取 引 先 リ ス ク 相 当 額	1,196	1,438	1,405
	基 礎 的 リ ス ク 相 当 額	3,700	3,498	3,753

(6)使用人および登録外務員の総数

区 分	2022 年 3 月期末	2023 年 3 月期末	2024 年 3 月期末
使 用 人	802 人	775 人	793 人
(う ち 外 務 員)	(694 人)	(673 人)	(693 人)
(うち金融先物取引外務員)	(25 人)	(25 人)	(25 人)

Ⅲ 財産の状況

1. 経理の状況

(1) 貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	前事業年度 (2023 年 3 月 31 日現在)		当事業年度 (2024 年 3 月 31 日現在)	
	金	額	金	額
(資産の部)				
流動資産				
現金・預金		7,389		7,186
預託金		84,761		104,308
顧客分別金信託	80,500		102,000	
顧客区分管理信託	100		100	
その他の預託金	4,161		2,208	
トレーディング商品		1,935		1,747
商品有価証券等	1,935		1,747	
約定見返勘定		535		311
信用取引資産		63,167		61,754
信用取引貸付金	61,716		60,008	
信用取引借証券担保金	1,450		1,745	
有価証券担保貸付金		183		335
借入有価証券担保金	183		335	
立替金		18		4
短期差入保証金		9,214		8,451
未収収益		1,475		1,328
その他の流動資産		372		491
貸倒引当金		△6		△6
流動資産計		169,046		185,913
固定資産				
有形固定資産		1,248		1,519
建物	231		280	
器具・備品	664		893	
土地	329		329	
その他の有形固定資産	22		16	
無形固定資産		444		274
ソフトウェア	444		274	
その他の無形固定資産	0		0	
投資その他の資産		2,636		2,932
投資有価証券	1,205		1,460	
長期差入保証金	702		710	
繰延税金資産	368		566	
その他の投資等	476		297	
貸倒引当金	△116		△102	
固定資産計		4,329		4,726
資産合計		173,376		190,639

(単位:百万円)

科 目	前事業年度 (2023 年 3 月 31 日現在)		当事業年度 (2024 年 3 月 31 日現在)	
	金 額		金 額	
(負債の部)				
流 動 負 債				
ト レ ー デ ィ ン グ 商 品		272		406
商 品 有 価 証 券 等	249		394	
デ リ バ テ ィ ブ 取 引	23		11	
信 用 取 引 負 債		21,851		18,534
信 用 取 引 借 入 金	15,478		11,031	
信 用 取 引 貸 証 券 受 入 金	6,373		7,502	
有 価 証 券 担 保 借 入 金		4,048		4,370
有 価 証 券 貸 借 取 引 受 入 金	4,048		4,370	
預 り 金		44,514		54,729
受 入 保 証 金		41,847		46,642
短 期 借 入 金		3,500		3,500
未 払 法 人 税 等		1,058		1,999
賞 与 引 当 金		821		1,404
そ の 他 の 流 動 負 債		1,253		1,042
流 動 負 債 計		119,168		132,628
固 定 負 債				
社 債		4,000		4,000
資 産 除 去 債 務		201		272
そ の 他 の 固 定 負 債		18		12
固 定 負 債 計		4,219		4,284
特別法上の準備金				
金融商品取引責任準備金		439		535
特 別 法 上 の 準 備 金 計		439		535
負 債 合 計		123,827		137,448

(単位:百万円)

科 目	前事業年度 (2023 年 3 月 31 日現在)		当事業年度 (2024 年 3 月 31 日現在)	
	金	額	金	額
(純資産の部)				
株 主 資 本				
資 本 金		13,500		13,500
資 本 剰 余 金		13,371		13,371
利 益 剰 余 金				
利 益 準 備 金	2,437		2,625	
その他利益剰余金				
繰越利益剰余金	19,795		23,094	
利益剰余金合計		22,233		25,720
株 主 資 本 合 計		49,105		52,592
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金		443		598
評価・換算差額等合計		443		598
純 資 産 合 計		49,548		53,191
負 債 ・ 純 資 産 合 計		173,376		190,639

(2) 損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前事業年度 自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日		当事業年度 自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日	
	金 額		金 額	
営 業 収 益				
受 入 手 数 料		12,117		10,801
委 託 手 数 料	8,405		7,336	
引受け・売出し・特定投資家向け	139		107	
売付け勧誘等の手数料				
募集・売出し・特定投資家向け	1,183		787	
売付け勧誘等の取扱手数料				
その他の受入手数料	2,388		2,570	
トレーディング損益		5,443		10,636
金 融 収 益		2,124		2,595
その他の営業収益		15		15
営業収益計		19,701		24,048
金 融 費 用		262		259
純 営 業 収 益		19,438		23,789
販売費・一般管理費				
取引関係費	1,745		2,001	
人 件 費	7,050		8,268	
不動産関係費	1,438		1,411	
事務費	3,124		3,161	
減価償却費	660		644	
租 税 公 課	343		386	
その他	296		304	
販売費・一般管理費計		14,659		16,178
営 業 利 益		4,779		7,610
営業外収益		178		165
営業外費用		60		25
経 常 利 益		4,897		7,750
特 別 利 益				
投資有価証券売却益	—		40	
特別利益計		—		40
特 別 損 失				
金融商品取引責任準備金繰入	1		95	
特別損失計		1		95
税 引 前 当 期 純 利 益		4,896		7,695
法人税、住民税及び事業税		1,541		2,605
法人税等調整額		△1		△277
当 期 純 利 益		3,356		5,367

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度(自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本 合 計
		その他 資本 剰余金	資 本 剰余金 合 計	利 益 準 備 金	その他利益 剰 余 金 繰 越 利 益 剰 余 金	利 益 剰 余 金 合 計	
当期首残高	13,500	13,371	13,371	2,249	18,507	20,757	46,735
事業年度中の変動額							
剰余金の配当	—	—	—	188	△2,066	△1,880	△1,880
当期純利益	—	—	—	—	3,356	3,356	3,356
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	—	—	—	188	1,288	1,476	1,476
当期末残高	13,500	13,371	13,371	2,437	19,795	22,233	49,105

(単位:百万円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	そ の 他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	445	445	48,074
事業年度中の変動額			
剰余金の配当	—	—	△1,880
当期純利益	—	—	3,356
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	△1	△1	△1
事業年度中の変動額合計	△1	△1	1,474
当期末残高	443	443	49,548

当事業年度(自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)

(単位:百万円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			株主資本 合 計
		その他 資本 剰余金	資 本 剰 余 金 計	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金 繰越利益剰 余 金	利 益 剰 余 金 計	
当期首残高	13,500	13,371	13,371	2,437	19,795	22,233	49,105
事業年度中の変動額							
剰余金の配当	—	—	—	188	△2,068	△1,880	△1,880
当期純利益	—	—	—	—	5,367	5,367	5,367
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—
事業年度中の変動額合計	—	—	—	188	3,299	3,487	3,487
当期末残高	13,500	13,371	13,371	2,625	23,094	25,720	52,592

(単位:百万円)

	評価・換算差額等		純資産合計
	そ の 他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	443	443	49,548
事業年度中の変動額			
剰余金の配当	—	—	△1,880
当期純利益	—	—	5,367
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)	155	155	155
事業年度中の変動額合計	155	155	3,642
当期末残高	598	598	53,191

【財務諸表の作成方法について】

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)並びに同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(2007年内閣府令第52号)及び「有価証券関連業経理の統一に関する規則」(1974年11月14日 日本証券業協会自主規制規則)に準拠して作成しております。

【重要な会計方針】

1. 有価証券等の評価基準及び評価方法

(1)トレーディング商品に属する有価証券(売買目的有価証券)等の評価基準及び評価方法

トレーディング商品に属する有価証券及びデリバティブ取引等の評価基準及び評価方法については、時価法を採用しております。

(2)トレーディング商品に属さない有価証券等の評価基準及び評価方法

①其他有価証券

ア. 市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

イ. 市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合等への出資については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、組合決算の持分相当額を純額方式により当事業年度の損益として計上することとしております。

また、組合等がその他有価証券を保有している場合で当該有価証券に評価差額がある場合には、評価差額に対する持分相当額をその他有価証券評価差額金に計上することとしております。

②デリバティブ取引

時価法によっております。

2. 固定資産の減価償却の方法

(1)有形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建	物	2年～47年
器	具・備品	2年～15年

(2)無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。なお、自社利用のソフトウェアについては社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

(3)リース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3. 引当金及び特別法上の準備金の計上基準

(1)貸倒引当金

貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2)賞与引当金

従業員に対する賞与の支払に備えるため、当社所定の計算方法による支払見込額を計上しております。

(3)退職給付引当金

退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しております。

(4)金融商品取引責任準備金

証券事故及び金融先物事故による損失に備えるため、「金融商品取引法」第46条の5の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」第175条第1項に定めるところにより算出した金額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。

なお、顧客との約束が財又はサービスを他の当事者によって提供されるように手配する履行義務である場合には、代理人として純額で収益を認識しております。

5. その他の財務諸表の作成のための基本となる重要な事項

繰延資産の処理方法

社債発行費につきましては、支出時に全額費用として処理しております。

【重要な会計上の見積もり】

1. 繰延税金資産の回収可能性

(1)当事業年度の財務諸表に計上した金額

繰延税金資産 566百万円

(2)識別した項目に係る会計上の見積りの内容に関する情報

繰延税金資産の計上に際しては、回収可能性の判断において、将来の一時差異解消時期および課税所得の発生見込額を合理的に見積っております。

当該見積りは、将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際に発生した課税所得の時期および金額が見積りと異なった場合、翌事業年度の計算書類において、繰延税金資産の計上額に重要な影響を与える可能性があります。

過去(3年)および当期において、臨時的な原因により生じたものを除いた課税所得は、市場動向に左右される業界特有の収益構造にあるものの、安定的に課税所得を計上しております。市場環境の見通しについては、世界経済は、欧米の利上げや物価上昇が次第に落ち着き、市況も徐々に回復すると思われます。一方、国内経済は期前半に、急激な物価上昇等による景気後退懸念から、先行き不透明な状況が見込まれるものの、海外からのインバウンド需要による経済効果への期待などを反映して、年後半には、世界経済と同様、景気悪化の底打ち後に、本格的に回復することが見込まれます。こうした状況を反映して、日経平均が当期と同水準で推移することを仮定し、経営環境に大きな変化が生じないことを踏まえ、当社の課税所得は、当期と同等の水準を維持するものと見込んでおります。

2. 固定資産の減損

(1)当事業年度の財務諸表に計上した金額

有形固定資産及び無形固定資産 1,794百万円
減損損失 ー百万円

(2)識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

①算出方法

当社の資産グルーピングは、キャッシュ・フローを生み出す最小の単位として店舗または部門(以下「部店等」という。)を基準にグルーピングを行っております。部店等の損益が継続してマイナスとなるか、またはマイナスとなる見込みである場合、加えて、自社店舗については建物と土地の時価が著しく下落した状態にある場合に、当該部店等について減損の兆候があると判断します。

部店等から得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識の要否を判定します。判定の結果、割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回り、減損損失の認識が必要と判断された場合、帳簿価額を回収可能価額(正味売却価額または使用価値のいずれか高い価額)まで減額し、帳簿価額の減少額を減損損失として計上します。

当事業年度において減損の兆候ありと判定された部店等について、割引前将来キャッシュ・フローの見積りを行ったところ、固定資産の帳簿価額を上回っていることから、減損損失の認識は不要と判断しております。

②主要な仮定

割引前将来キャッシュ・フローの見積りは、市場予測に加え、新NISAに伴う市場活性化などの成長見通しを

考慮した取締役会承認の予算を基礎としており、その主要な仮定は、市場動向に基づく収益計画であります。

③翌事業年度の財務諸表に与える影響

部店等の損益は、市場動向により大きく影響を受けることから、翌事業年度の市場が低迷した場合には、固定資産の減損損失の認識の判定および減損損失の測定に重要な影響を与えるリスクがあります。

【貸借対照表関係】

	(2023 年 3 月期)	(2024 年 3 月期)
有形固定資産の減価償却累計額	2,071 百万円	2,235 百万円

(1)株主資本等関係

前事業年度(自 2022 年 4 月 1 日 至 2023 年 3 月 31 日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	2022 年 3 月期	増加	減少	2023 年 3 月期
普通株式(株)	40,000,000	—	—	40,000,000

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1)配当金支払額

決議日	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1 株当りの配当額	基準日	効力発生日
2022 年 5 月 23 日 取締役会	普通株式	利益剰余金	1,400 百万円	35 円	2022 年 3 月 31 日	2022 年 6 月 3 日
2022 年 10 月 21 日 取締役会	普通株式	利益剰余金	480 百万円	12 円	2022 年 9 月 30 日	2022 年 11 月 24 日

(2)基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議予定日	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1 株当りの配当額	基準日	効力発生日
2023 年 5 月 22 日 取締役会	普通株式	利益剰余金	1,400 百万円	35 円	2023 年 3 月 31 日	2023 年 6 月 2 日

当事業年度(自 2023 年 4 月 1 日 至 2024 年 3 月 31 日)

1. 発行済株式に関する事項

株式の種類	2023 年 3 月期	増加	減少	2024 年 3 月期
普通株式(株)	40,000,000	—	—	40,000,000

2. 自己株式に関する事項

該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議日	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当りの配当額	基準日	効力発生日
2023年5月22日 取締役会	普通株式	利益剰余金	1,400百万円	35円	2023年3月31日	2023年6月2日
2023年10月20日 取締役会	普通株式	利益剰余金	480百万円	12円	2023年9月30日	2023年11月24日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

決議予定日	株式の種類	配当の原資	配当金の総額	1株当りの配当額	基準日	効力発生日
2024年5月20日 取締役会	普通株式	利益剰余金	2,320百万円	58円	2024年3月31日	2024年6月3日

2. 借入金の主な借入先及び借入金額

・短期借入金

(単位:百万円)

種類及び借入先	2023年3月期	2024年3月期
金融機関借入金		
株式会社りそな銀行	2,000	2,000
株式会社三井住友銀行	300	300
三井住友信託銀行株式会社	300	300
株式会社関西みらい銀行	300	300
株式会社京都銀行	100	100
株式会社南都銀行	100	100
株式会社みずほ銀行	100	100
株式会社十六銀行	100	100
株式会社池田泉州銀行	100	100
株式会社みなと銀行	100	100
合計	3,500	3,500

3. 保有有価証券の状況(トレーディングに係るもの以外)

(1) 満期保有目的債券の時価等

該当事項はありません

(2) その他有価証券の時価等

(単位:百万円)

種類	前事業年度 (2023年3月31日現在)			当事業年度 (2024年3月31日現在)		
	取得原価	貸借対照表計上額	差額	取得原価	貸借対照表計上額	差額
株式	347	952	605	327	1,168	841

(3) 市場価格のない主な有価証券(上記を除く)の内容及び貸借対照表計上額

(単位:百万円)

種類	前事業年度 (2023年3月31日現在)	当事業年度 (2024年3月31日現在)
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
投資事業有限責任組合への出資金	252	291

(4) 当期中に売却したその他有価証券

(単位:百万円)

種 類	前事業年度 (2023 年 3 月 31 日現在)			当事業年度 (2024 年 3 月 31 日現在)		
	売却額	売却益の 合計額	売却損の 合計額	売却額	売却益の 合計額	売却損の 合計額
株 式	—	—	—	59	40	—

(5) トレーディング以外のデリバティブ取引の状況

該当事項はありません。

4. 財務諸表に関する監査法人等による監査の有無

前事業年度(2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日)及び当事業年度(2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)の財務諸表については、会社法第 436 条第 2 項第 1 号の規定に基づき、PwCJapan 有限責任監査法人の監査を受けております。

- カ. 前号に基づく公的機関等への届出書類の管理・保存に関する事項
- コ. 広告等の審査に関する事項
- ク. 広告等の審査に係る管理・指導に関する事項
- ケ. コンプライアンス本部長の事務局業務に関する事項
- コ. お客様からの問合せ・苦情・相談に関する事項
- セ. お客様取引及び投資勧誘に係る法適合性の精査に関する事項
- サ. お客様担当営業社員の法令・規則等の遵守の指導及びチェックに関する事項
- シ. 個人及び法人のお客様の審査に関する事項
- ス. 個人及び法人のお客様の取引状況の管理に関する事項
- セ. 有価証券先物取引、有価証券指数等先物取引、有価証券オプション取引、海外証券先物取引等、信用取引及び選択権付債券売買取引の証拠金・保証金、限度額、期日等の管理に関する事項
- テ. 内部管理の徹底及び法令・規則等の遵守並びに管理責任者への指導及び助言に関する事項

・検査部

- イ. 社内検査規程に定める検査対象部店等に対する社内検査に関する事項

・売買審査部

- イ. 売買取引の監視・調査及びルール遵守徹底の指導に関する事項
- ロ. 内部者情報及び内部者取引の管理並びに指導に関する事項
- ハ. 売買状況に係る官庁等への報告に関する事項

・リスク管理室

- イ. 全社的リスクの総合管理に関する事項
- ロ. 総合リスク管理の企画・業務の総合調整に関する事項
- ハ. 総合リスク管理にかかる指導及び助言に関する事項
- ニ. 情報全般の管理に関する事項
- ホ. お客様及び金融商品取引業者のクレジット審査及び与信管理に関する事項

・引受審査室

- イ. 引受の審査に関する事項
- ロ. 未公開企業の有価証券取得に係る企業審査に関する事項

(3)内部管理に係る各責任者の役割と責任

①内部管理統括責任者

- イ. 役職員に対し、法令諸規則等を遵守する営業姿勢の徹底
- ロ. 投資勧誘等の営業活動、顧客管理が適正に行われるよう、内部管理体制の整備
- ハ. 営業責任者、内部管理責任者の指導、監督
- ニ. 法令諸規則等に違反する事案に対する適正な処分
- ホ. 行政官庁、証券業協会等との適切な連絡、調整
- ヘ. 投資勧誘等の営業活動、顧客管理に関する重大な事案が生じた場合の、代表取締役会長・社長への報告

②内部管理統括補助責任者

- イ. 内部管理統括責任者の職務を分担、その遂行状況の報告

③営業責任者

- イ. 所属役職員に対し、法令諸規則等を遵守する営業姿勢を徹底
- ロ. 所属役職員に対し、投資勧誘等の営業活動、顧客管理が適正に行われるよう指導、監督
- ハ. 投資勧誘等の営業活動、顧客管理に関する重大な事案が生じた場合の内部管理統括責任者への報告

④内部管理責任者

2. 内部監査体制及び役割

- ・内部監査部

- (1)会社業務全般に対する内部監査に関する事項
- (2)グループ会社の業務全般に対する内部監査に関する事項
- (3)内部統制にかかる体制の整備に関する事項
- (4)財務報告にかかる適正性の確保に関する事項

2. 分別管理等の状況

(1) 金融商品取引法第43条の2の規定に基づく分別管理の状況

① 顧客分別金信託の状況

(単位: 百万円)

項 目	2023 年 3 月 31 日現在の金額	2024 年 3 月 31 日現在の金額
直近差替計算基準日の 顧客分別金必要額	73,212	83,076
期 末 日 現 在 の 顧客分別金信託額	80,500	102,000
期 末 日 現 在 の 顧客分別金必要額	71,260	82,474

② 有価証券の分別管理の状況

(イ) 保護預り等有価証券

有価証券の種類		2023 年 3 月 31 日現在		2024 年 3 月 31 日現在	
		国 内 証 券	外 国 証 券	国 内 証 券	外 国 証 券
株 券	株数	651,225 千株	33,942 千株	817,991 千株	34,104 千株
債 券	額面金額	98,346 百万円	48,491 百万円	94,423 百万円	21,228 百万円
受益証券	口数	458,556 百万口	943 百万口	488,924 百万口	895 百万口
その他	金額	288 百万円		221 百万円	

※その他の内訳は、ETN信託受益証券及びJDR形式で上場の外国ETF信託受益証券であります。

(ロ) 受入保証金代用有価証券

有価証券の種類		2023 年 3 月 31 日現在	2024 年 3 月 31 日現在
株 券	株数	113,114 千株	120,404 千株
債 券	額面金額	362 百万円	207 百万円
受益証券	口数	22,669 百万口	17,555 百万口
その他	金額	154 百万円	238 百万円

(注) 受入保証金代用有価証券のうち、顧客分別金の計算対象とされる第三者への再担保差入を行っているものはありません。

(ハ) 管理の状況

(国内有価証券の部)

管理場所及び国名	管理方法	区 分	数・額面金額	単 位
自 社 日 本	単純管理	株 券	15,210	千株
		債 券		
		受益証券	0	百万口
		そ の 他		
	混合管理	株 券	57	千株
		債 券		
		受益証券		
		そ の 他		
自社口座管理 日 本	振替決済	株 券	922,950	千株
		債 券	77,627	百万円
		受益証券	506,479	百万口
		その他	460	百万円
日本銀行 日 本	振替決済	株 券		
		債 券	17,003	百万円
		受益証券		
		その他		

(外国有価証券の部)

管理場所及び国名	管理方法	区 分	数・額面金額	単 位
自 社 日 本	単純管理	株 券		
		債 券		
		受益証券		
		そ の 他		
	混合管理	株 券	418	千株
		債 券		
		受益証券		
		そ の 他		
証券保管振替機構 日 本	混合管理	株 券	483	千株
		債 券		
		受益証券	0	百万口
		そ の 他		
ユーロクリア ベルギー	混合管理	株 券	44	千株
		債 券	9,060	百万円
			575,939	千トルコリラ
			1	千ポンド
			210	千加ドル
			134,620	千メキシコペソ
			40,294	千米ドル
			1,160	千リアル
			27,000	千ロシアルーブル
			30,800	千ランド
			5,088	千豪ドル
			2,726	千NZドル
			1,300	千インドルピー
		受益証券		
		そ の 他		

管理場所及び国名	管理方法	区 分	数・額面金額	単 位
三菱UFJインベスターサービス ルクセンブルグ	混合管理	株 券	869	千株
		債 券	6,889	千ドル
		受益証券		
		そ の 他		
インタラクティブ・ブローカーズ アメリカ	混合管理	株 券	14,812	千株
		債 券		
		受益証券	0	百万口
		そ の 他		
申萬宏源証券 中 国	混合管理	株 券	107	千株
		債 券		
		受益証券		
		そ の 他		
大和証券キャピタルマーケット 中 国	混合管理	株 券	4,346	千株
		債 券		
		受益証券		
		そ の 他		
スタンダード・チャータード銀行 ベトナム	混合管理	株 券	13,195	千株
		債 券		
		受益証券		
		そ の 他		
スタンダード・チャータード銀行 マレーシア	混合管理	株 券	3	千株
		債 券		
		受益証券		
		そ の 他		
受託銀行 ルクセンブルグ	混合管理	株 券		
		債 券		
		受益証券	895	百万口
		そ の 他		

③対象有価証券店頭デリバティブ取引等に係る分別管理の状況
該当事項はありません。

(2) 金融商品取引法第 43 条の 2 の 2 の規定に基づく区分管理の状況

該当事項はありません。

(3) 金融商品取引法第 43 条の 3 の規定に基づく区分管理の状況

① 法第 43 条の 3 第 1 項の規定に基づく区分管理の状況

(単位:百万円)

	管理の方法	2023年3月31日現在	2024年3月31日現在	内 訳
金 銭	特定金銭信託	100	100	日証金信託銀行株式会社
	媒介等相手方への預託	7,428	6,864	株式会社東京金融取引所
有 価 証 券 等	—	—	—	
	—	—	—	

② 法第 43 条の 3 第 2 項の規定に基づく区分管理の状況

該当事項はありません。

V 連結子会社等の状況

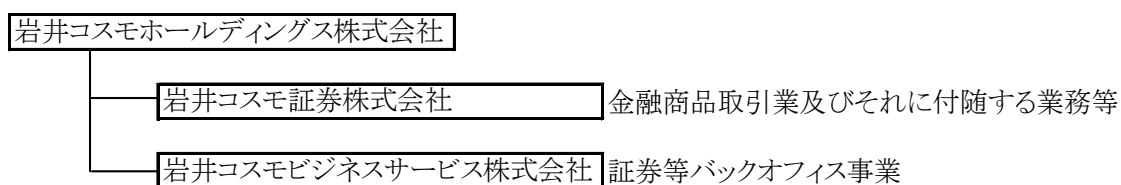
1. 当社及びその子会社等の集団

当社グループは、当社、持株会社の親会社である岩井コスモホールディングス株式会社及び岩井コスモビジネスサービス株式会社から構成されており、主として、金融商品取引業を中心とした事業活動を営んでおります。

具体的な事業としては、有価証券の売買等及び売買等の委託の媒介、有価証券の引受け及び売出し等の金融商品取引業及び金融商品取引業に関連又は付随する事業、その他関連ビジネスを行い、顧客に対して幅広いサービスを提供しております。

(2024年7月1日現在)

当社グループの事業系統図



2. 連結子会社の商号、所在地、資本金の額、事業の内容等

該当事項はありません。

業務及び財産の状況に関する説明書

【2024 年 3 月期】

岩井コスモ証券株式会社

大阪市中央区今橋一丁目 8 番 12 号

<https://www.iwaicosmo.co.jp/>